

平成 28 年度文京区障害者地域自立支援協議会 就労支援専門部会検討内容

平成 28 年 10 月 12 日 午後 2 時～午後 4 時

文京区役所 3 階 AB 会議室

1. 開会 出席者 19 名 欠席者 5 名

2. 議事

(1) 施設へのアンケート結果の検討 【資料：1-1】【資料 1-2】

- ・実習を希望する施設は多い。実習の場所・作業内容も、事務系・作業系等希望は幅広い。
- ・1～2 週間連続というような期間の長さがあれば、振り返りが可能である。さらに長期の実習ができれば、短期の実習では見えない課題が見えてくる場合もある。仕事に就いたことのない人にとっても、仕事のイメージ作りとなる。
- ・事業所内での福祉的就労に力を入れているが、事業所外に出ることも学びの機会となる。

●企業就労をめざさない実習についての課題や意見

- ・区役所インターンシップは年に 4～5 回あったが、同じメンバーが実習生となりがち。息抜きや楽しいという感想をもっている。
- ・区役所職員から見て、区役所インターンシップをしているイメージがない。職員側もインターンシップを作業所での次へのステップアップの機会ととらえるとよいと思われる。

●企業は就労を前提としない実習を受け入れることは可能か

- ・受け入れは可能である。ただ企業は福祉的就労と視点が違い、品質の保持をしてもらう。企業によってはタイミングが合わず受け入れられない場合もある。

●区役所インターンシップが伸び悩んでいる理由と今後について

- ・伸びない理由として、2 週間前に申し込みが必要であること、依頼課の場所確保が難しい場合があることが挙げられる。社会参加として、障害者ボランティア制度を試験的に実施。臨時職員(月 16 日)、区役所でのアルバイト等の仕事を利用していくと、ステップアップにつながるのではないかと。

(2) 実習のしくみについて

●アンケートから企業への質問事項に関して、委員が回答した【資料 2】

- ・実習生の準備性、求める人材、企業側の配慮について質問が挙げられた。
回答：働く意欲と協調性を求める。報連相ができる、何かあった時に相談ができるスキルも必要。仕事の能力というよりも、勝手にやり方を変えずに、指示を忠実に守ることができるとよい。一つのことができるようになるまで何度も繰り返し教えることを社員はいとわない。
- ・企業が求める支援に関して質問が挙げられた。
回答：企業側に言いにくい事、家庭との連携など、良き相談相手になって欲しい。時には会社訪問もあるとよい。

●実習に向けて今後の支援について

- ・実習は振り返りが大切であり、テーマを持って一つ一つの実習に向き合う事で次につながると思う。
- ・支援者の役割として、意欲のある人、協調性のある人を育てていかななくてはならない。
- ・障害受容は働く上で大切だと思われる。
- ・B 型利用者も大きな社会と繋がる機会と実習をとらえて実施している。
- ・支援者が企業を知る必要あり。支援者の企業実習の機会があるとよい。